

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
三原市立南小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	2	2	2	3	3	3	15	5	20

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	6	3	3	9	
理科	5	3	3	9	

授業時数 計 18 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
書写	6	3	1	3	
書写	5	2	1	2	

授業時数 計 5 (b)

授業時数 合計 23 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1	
6年 1組 (担任: A)	A	推進	A	A	推進	専科	A	B	C	A	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	B	推進	B	B	推進	専科	A	B	C	B	B	B	B
6年 3組 (担任: C)	C	推進	C	C	推進	専科	A	B	C	C	C	C	C
教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1	
5年 1組 (担任: D)	D	推進	D	D	推進	専科	F	E	D	D	D	D	D
5年 2組 (担任: E)	E	推進	E	E	推進	専科	F	E	D	E	E	E	E
5年 3組 (担任: F)	F	専科	F	F	推進	専科	F	E	D	F	F	F	F

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	27	A	6-2	図工	1.4	2.8	19.4	22.2
			6-3	図工	1.4			
6-2	27	B	6-1	家庭	1.6	3.2	19.6	22.8
			6-3	家庭	1.6			
6-3	27	C	6-1	体育	2.6	5.2	20.6	25.8
			6-2	体育	2.6			
5-1	30	D	5-2	体育	2.6	5.2	20.5	25.7
			5-3	体育	2.6			
5-2	30	E	5-1	家庭	1.7	3.4	19.6	23
			5-3	家庭	1.7			
5-3	30	F	5-1	図工	1.4	2.8	19.3	22.1
			5-2	図工	1.4			

5 成果と課題

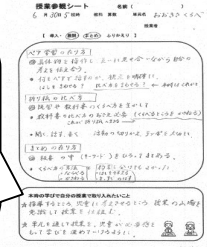
(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉


【指導力を高める】

- ・同じ授業内容を複数回行い、指導改善を図る。
- ・担当教科を学年間で話し合って決める。
- ・互いの授業を参観し学び合う。(授業参観シートを活用し、代案をもって参観する)

「自分だったら・・・」
「自分の授業で取り入れたいことは・・・」



・全教職員が指導案検討に関わり、模擬授業形式でA層B層C層に分かれそれぞれの児童の立場で考える。



レディネステストからも単元に係る基礎的・基本的な事項を定着させて学びの土台をそろえて学習に入ろう。


A児は、ここで躓きそうだから、視覚支援をしよう。

①
④

【全授業において】

- ・R80を活用した振り返りの充実(定期的なノート交流と校内掲示)

80字以内、接続詞を使って2文で45分間の授業の振り返りを書く。



洗れる場所によって、川の様子が全く違うことがわかった。このことから、洗れる水と関係があるのか、右側は洗れる水はどのような気持ちはたしかにあるのかを調べたい。

植物は生きていて、呼吸をとったり日光に当たると空気中に酸素を出したりと私達が生きるために大事な働きをしている。だから、身近な植物の生命を大切にしたい。

- ・1人1台端末・デジタル教科書の有効活用
- ・校内ICT活用実践事例集に教材教具を蓄積

〈成果〉

- ・児童の学びに向かう姿勢が高まり、「分かる授業」へとつながっている。
【第1回教科担任制に関する児童アンケート結果より】

	R7 6月	R8 1月
教科担任制で学ぶことで、勉強の内容がよく分かるようになった(肯定的評価)	95.6%	94.3%

- ・昨年度担当していた教科を今年度も担当することによって、さらに指導力を高めることにつながっている教職員もいる。教科担任以外の教科でも教員が蓄積している教材教具を活用したり、互いに教え学び合ったりしながら指導力を高めている。また、教材教具の蓄積は業務改善にもつながっている。
- ・全教職員が一人一人の児童の姿を思い浮かべ、個への手立てや支援を考え、単元に入るまでに習熟を図ったり、授業での手立てを考えたりすることができ、児童の学びに向かう姿勢が高まり、全員参加の授業づくりにつながっている。
- ・指導案検討の際には、教職員が本時の授業で児童に書かせたいR80(振り返り)を書き、本時で児童から引き出したい言葉や姿を具体化して有効な発問や探究場面の設定について熟議することで、学びをファシリテートする力が向上し、授業改善につながっている。

①
④

- ・R80の目的の共通認識を図り、全授業で取り組むことによって、①学習意欲の向上 ②思考力・表現力・論理力の育成 ③授業改善へとつながっている。さらに、校内掲示することで、互いに読み合い、学び合う児童の姿も見られる。
- ・一人一人の児童のR80にコメントを書き、45分間の授業の中での頑張りや成長も伝える中で、学びに向かう姿勢や自己有用感も高まっている。

【第2回教科担任制に関する教職員アンケート「授業改善や学習指導の充実につながっている」肯定的評価ともに100%】

【理科1学期単元末テスト
正答率 5年 91.1% 6年 90.0%
2学期単元末テスト
正答率 5年 90.2% 6年 92.3%】

【チーム南として】

- ・週1回の職員連絡会で児童交流の場をもつ。
(気になる児童、頑張っている児童、効果のあった手立て、悩み等の共有)
- ・学級担任と教科担任の連携
- ・全教職員が学年所属
- ・取組の目的の共通認識を図る。
- ・取組や事案に対して複数で対応
- ・職員室での座席配置の工夫
- ・職員間での挨拶や職員室での何気ない会話を大切にす。



A児が、国語の時間にこんな振り返りを書いていて…

遅刻が多かったB児はこんな背景を抱えていて…

～学力補充「聞いてねタイム」～
給食準備中に、低学年の児童を中心に計算や音読を担任外が聞く。

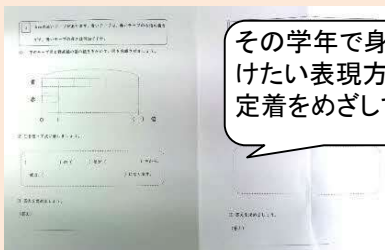


②

すらすらと九九が唱えられるようになってきたよ。

～学力補充「チャレンジタイム・チャレンジタイム」～

全教職員が教室に位置づき、掃除後、15分間で基礎的・基本的な学力、思考力・表現力の定着を図る。



その学年で身に付けたい表現方法の定着をめざして。

「やればできる検定」を実施



うれしい！合格になったから、次の検定に挑戦しよう！

「やればできる！」を合言葉に、最後までがんばろう！！

- ・児童の些細な変化に気づき、共有、対応ができ積極的生徒指導にもつながっている。
- ・担任だけではなく、複数の教職員とつながることができ、心の安定につながっている児童も多い。

【第1回教科担任制に関する児童アンケートより】

～児童の声～

- ・たくさんの先生と関わることができて、困ったことを相談できる人が増えた。
- ・いろいろな先生の授業が受けられて楽しいし、いろいろな考え方があって視野が広がる。
- ・中学校になったら全教科違う先生だから、小学校のうちに慣れておく と安心だ。

☆昨年度、すべてのアンケート項目に否定的な回答をしていた児童が、今年度はすべて肯定的な回答をしていた。

・職員室では、学年を超え授業や児童に関わる話題が挙がり、「みんなで支え合い みんなで育てる」意識が高まっている。

【校内教職員アンケート12月実施「組織的にチームとして取組が進められている」肯定的評価100%】

②

・6年生対象に児童アンケート(中学校にスムーズにつなげるために、経験したいこと、やってみたいことはありますか)をとり、児童の声を受けて中学校連携を計画的に仕組む。(職場体験学習参加生徒によるプレゼン発表会、中学校訪問と授業参観、出前授業)

【中学生によるプレゼン発表会より】



中学校では…
今大切にして
おくとよいこと
は…

【中学校へ授業体験学習に】

児童アンケート結果を受けて、要望が多かった授業を体験。
英語科と数学科の授業を受けて…

③



体験学習に行く目的を学年通信で保護者に発信したり、取組の様子や児童の声を校内掲示したりして発信。

・児童の思いを組み入れた中学校連携を図る中で、教職員は個々の児童の心の内を知ることができた。さらに、児童は主体的に学び、中学校進学に対する安心感をもつことができた。特に、同年代の中学校生徒から話を聞いたり、中学校教諭から生活面のみでの指導だけではなく、教科指導をしていただいたりしたことは効果的だった。

～プレゼン発表会後の児童の声～

・中学校のきまりや試験のことを知ることができて、安心した。中学校でも頑張ろうと思った。

・今、いろいろなことに挑戦して自信をつけておこうと思った。中学校へ行くことが楽しみになった。

～中学校体験学習後の振り返りR80～

③

R80
授業を受けたり、話を聞いたりして安心したし、中学校で学ぶことが楽しみになった。また今のうちから分からないことをそのままにせず、こつこつ努力することが大切だと思った。

R80
中学校では、小学校で学んだことをより深めたり、理解したりする力が大切だと感じた。だから、毎日の授業で「なぜこうなるのか」を常に考えて力をつけていきたい。

〈課題〉

・担当教科において、中・高の免許状を有していたり、専科指導を3年以上経験したりしている教職員がおらず、専門性を生かした学習指導の充実につながらない側面もある。

- ①
 - ④
- ・時間割が複雑化し、行事や出張があったり、祝日が重なったりした際に、空き時間の確保や授業の組み換えの調節が難しく負担になることもある。
全教職員にとっての業務負担の軽減に至っていない。

【第2回教科担任制に関する教職員アンケート 肯定的評価「業務改善につながっている」85.7%】

・児童アンケート「相談できる先生が増えた」においては、肯定的評価の児童が項目の中で一番低い。

- ②
- 【第2回教科担任制に関する児童アンケート結果より(肯定的評価)】

いろいろな先生と話す機会が増えた	分からないことや困ったことを相談できる先生が増えた
89.2%	76.0%

・全児童が中学校へ不安なく進学していくことができるよう手立てを講じていく必要がある。

- ③
- 【第2回教科担任制に関する児童アンケート「中学校から不安がなくなった」肯定的評価88.6%】

〈対策〉

・教科の系統性及び、学年や中学校の学びのつながりを意識した深い教材研究を行うとともに校内研修の充実を図る。

・教科担任制の目的や意図、成果や課題等を全教職員で共有し組織的な取組を推進していく。

- ①
 - ④
- ・取組の目的「何のために行うのか」を各部や各学年で熟議し、全教職員で共有化を図り、同じ目標に向かっていく。

・三原市の中でも教科担任制を実施している学校間の交流を定期的に行う。

・週1回の職員連絡会での児童交流の場で、児童の頑張りも積極的に伝え合い、全教職員で児童に認める声かけ等をしていく。

- ②
- ・温かい教職員集団の中での日々の小さな積み上げが、教職員だけではなく、児童の心身の安定や成長にもつながっている。今後も安全・安心な学校づくりを全教職員で大切にしていく。

・小・中学校の円滑な接続に向け、児童の思いを大切に連携内容や活動内容を実態に合わせて変えながら計画的に仕組んでいく。

- ③